

2024年度

松山市立伊台保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を下記の通り公表いたします。また、自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025年2月3日（月）～2月28日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月28日（金）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	保育理念に則り、一人ひとりに寄り添い、尊重し、待つこと、共感することを大切に、どんな時も子どもを最優先に考えた、子ども主体の保育を行った。
子どもの発達援助	例年にない猛暑と厳冬の一年、子どもの発達や興味関心を考慮した保育内容に工夫した。ともに考え、やってみて、失敗もしながら経験の中で意欲と肯定感を育むことを大切にしたい。今後も日常的な異年齢児のふれあいや、食育活動も行っていきたい。
保護者に対する支援	全職員が子どもと関わり、子どもを真ん中に「ともに育てる」保護者との関係を大切にしながら成長や発見に共感し、誰にでも相談できる体制を整えてきた。親子活動では親子がふれあい、保護者同士がつながるきっかけとなり今後も継続したい。
保育を支える組織的基盤	積極的に社内・社外の研修に参加し、質の向上を図った。職員間の話し合いや連携を大切に、意見を出し合い、認め合う事で良い方向へと協同するチーム力が高まる事ができた。

総評
<p>今年度も、子どもに寄り添い、一人ひとりの良さを認め合う、子ども主体の保育を行いました。また、一年を通して「不適切保育」や「人権」について研修や話し合いを重ねることで、自分の保育を振り返り、あたたかく心地よい言葉かけや関わりを全職員で心がけてきました。</p> <p>職員間の話し合いでは意見を出し合い、互いに尊重しみんなで考え、協力し合うチームとなっています。今後も保護者との明るい挨拶や日常の対話を大切に、全職員がクラスの垣根なく子どもと関わり、信頼され「ともに育てる」保育園づくりに引き続き努めていきたいと思っております。</p>